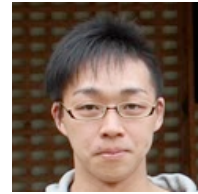


研究滞在記

～ 2011年10-11月 BNL & LC School ～

不破康裕



2011年10月29日から11月19日の間、化学研究所若手研究者国際短期派遣事業の支援の元、アメリカ合衆国に渡航しました。

11月5日まではニューヨーク州のブルックヘブン国立研究所(BNL)に滞在して、レーザーを用いたイオン源を開発しているグループの実験に参加しました。実験は有意義なものになりましたが、日本で実験する時と勝手が違うと覚えることもありました。例えば、様々な国から実験装置が集まっているため規格の違うねじが混在していて装置を組み立てるときに必要なねじが見つからなくて少々困ったりといったことがありました。また、BNLでは実験に参加するために事前に受講する必要がある安全講習の数が日本に比べはるかに多く安全管理が徹底されていることも印象的でした。

11月6日からは、カリフォルニア州パシフィックグローブで開催された **Sixth International Accelerator School for Linear Colliders (LC School)**に参加しました。これは次世代の高エネルギー加速器開発を担う若手研究者の育成を目的とした講義形式のシンポジウムで、世界各国から集まった55名の大学院生や若手研究者とともに、加速器物理の基礎から最先端の加速器開発の現状を学びました。同世代の研究者と寝食をともにしながら加速器物理を基礎から学ぶというのは貴重な機会です。夜遅くまで議論したり休憩時間に談笑やゲームをすることを通して、今後の研究での仲間でありライバルでもある友人がたくさんできたことも大きな成果です。

今回の滞在によって得られた経験や人とのつながりを財産とし、今後の研究に生かしたいと思います。最後になりますが、今回の渡航を支援して頂いた皆様に感謝致します。

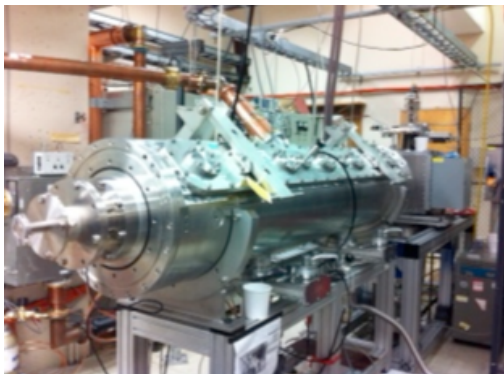


図1 BNLで使用した実験装置



図2 LC School 期間中 休憩での1コマ
(左から2番目が不破)